『2010 年上半期の回顧と下半期の展望』

2010 年8月 17 日

繊 維 部 会

Ⅰ。原　　綿

1．国際原綿

① 上期の回顧

リーマンショックを機に、2008 年末から 2009 年第１四半期にかけて期近物 50US¢/lb 以下へ急落していた NY 綿花定期相場は、2009 年央辺りから上昇の一途を辿り、年末は 75.60US¢で引け、2010 年 2 月に 80US¢台へ乗せた後、上期全般を通じて 80US¢を挟む展開の相場が続きました。(a)世界的に堅調に転じた綿糸相場を背景に、(b)綿花の需要が増加、(c)ここ数年続いた対前年比綿花生産減による在庫の縮小で、(d)需給バランスのタイト感が一気に増幅し、実需筋が相場を大きく押し上げた格好となった。

② 下期の展望

７月の米農務省(USDA)の発表によれば、昨季 2008/09 年度季末在庫率が 56.5%であったのに対し、今 2009/10 年度末の同在庫率は一気に 43.8%へ減少、更に来季 2010/11 年度末は 41.7%へと減少傾向が続くことが予想されている。現在、世界綿花浮動玉がほぼ枯渇した中で、今季増産予想の米綿が出回る時期までは極度にタイトな需給バランスが続くことは明らかで、相場は年末まで高値が続くとの見方が支配的である。いずれにせよ、世界的に堅調な綿糸相場が紡績の綿花需要を下支えしている背景で、中国・インド・パキスタン等の綿花消費大国の今後の動向が注目される。

2．国内原綿

① 上期の回顧

年末からの綿花相場の上昇で、年明け早々、相場は R$1.40/lb 台の高値に高騰した。国際市場では、米国・中国の生産減、世界の綿花消費が一定の水準に回復、需要増・供給減が見込まれる背景の中、国内市場は、生産減の予想、綿糸市況の好調による原綿の消費増で相場は高値で推移、その後綿花生産量は昨年並みと発表されたが、米綿の輸入税の大幅アップ(現在交渉中)、インド綿糸の対ブラジル向け輸出の一時停止、新綿入荷までの良品質綿花不足で相場は上昇を続け、７月には遂に、R$1.67/lb と 2004 年以来の高値に暴騰した。

② 下期の展望

今年の原綿生産量・輸出量・国内消費量の予想から見ても 10～20 万トンの原綿不足が懸念されており、来年の 2～3 月頃に輸入の動きが予想される。このような状況では、原綿相場が下がる材料が乏しく、高値の相場が続くと思われる。但し、輸入綿糸が大量に入ってきて、綿糸相場が下がる恐れが充分にある。新綿の品質は昨年並みだが、糖分の高い事が懸念されている。

Ⅱ。綿　　糸

1．国内綿糸

①　上期の回顧

今年の経済成長の見通しは 7%まで上方修正され、昨年とは対照的に上期は順調な成長を続けた。衣料品の消費が堅調で、綿糸の需要も好調を維持した。綿糸相場は、原綿価格の高騰と国内綿糸の需給バランスがタイトになったことにより、今年に入ってから上昇を続け、2004 年以来の高値となった。

②　下期の展望

衣料品の消費は依然として好調で、国内の綿糸需要は堅調に推移すると予想している。レアル高の為替を背景に輸入糸が増加する懸念はあるが、相場を左右するまでの影響はないと思われる。世界的に綿花不足が予想される中、国内綿糸相場にも影響を及ぼす可能性がある。

2．空紡糸

①　上期の回顧

上期の空紡糸市場は非常に過熱した状態であった。その原因としては、(a)前年の冬は良い冬であり、糸・生地・縫製品の全ての段階で在庫がなく、今上期の商売が好調、(b)ブラジルだけでなく世界的に原綿が高騰し、原糸不足を心配し、先物手当てに走った、ためである。

②　下期の展望

上期と比較して需要は低くなると予想される。(空紡糸にとっては)今冬の小売商戦は低調であったこと、原綿価格の高値張り付きを想定し、テキスタイル・縫製筋では紡績糸の手当て済み(上期で在庫増)であることによる。価格は、7～8 月は需要の端境期で弱含み、9 月以降は綿花相場が高値安定となっていることから回復すると見られる。

3．綿糸貿易

①　上期の回顧

上期の綿糸輸出は 743 トンで、前年同期比 37.6%減少した。綿糸輸入(主としてインド糸)は、33,239 トンで、旺盛な国内需要により前年同期比 243.4%の大幅増加となり、2008 年度の水準まで達した。2007 年以降綿糸貿易は大幅赤字構造となっている。輸入綿糸は国内綿糸と比較し安価であるが、今上期は綿糸国内販売の阻害要因とはならなかった。

②　下期の展望

綿糸輸出は、国内需要が旺盛かつ高採算なため、当面復活する見込みはない。綿糸輸入は旺盛な国内需要に対応するため、上半期並みのペースで推移すると思われる。ただし、国内綿糸市場を撹乱するには至らないであろう。

Ⅲ。織　　物

1．薄地織物

①　上期の回顧

好調な経済により、特に建設・インフラ関連のユニフォーム用途が好調に推移した(こ

れらの部門は厚地織物が中心)。一方薄地織物は、寝装用途は良好であったが、衣料用途は生地(特に婦人用合繊)・製品ベースでの輸入が増加し、国内生産は伸びていない。

② 下期の展望

引続き、建設・石油精製・鉱業・サービス業のユニフォーム用途は好調を維持すると見られる。薄地織物でも、上半期同様寝装用途は増加するが、衣料用途は輸入品との競争が続くと予想される。

2．紳士婦人服地、他

① 上期の回顧

昨年の下半期より消費も伸び始め、今年 GNP6%アップ、消費 10%アップと予想していたが、予想通りのスタートとなった。１月の既製服冬物展示会は非常な賑わいで、冬物商戦にも力が入った。しかし、消費全体が増加しているのにも関わらず、紳士服市場の動きは相変わらず悪く、価格競争も激しくなった。これに対し、ユニフォーム市場は非常に伸びた。婦人服市場は好不況関係なく伸びている。

上期の生地(織編物)の輸入量は 82%アップ、昨年の上期が前年比 20%ダウンだったため、その反動が大きい。既製服は 16%アップだった。為替が比較的安く落ち着いたためコストダウンになったが、競争相手が増え価格競争が激しく利益が取り難くなった。

アパレルは４月まで非常に良く、生産スペース不足で受注に対応できない状態だったが、５月に入り市場が止まり、冬物追加もなく６月には仕事が減ってしまった。婦人服メーカーは夏物の生産を前倒しでスタートさせ、もう来年の冬物の企画を始めた所もある。

小売業界は、４月に２週間ほど急に寒くなり、冬物商戦は順調にスタートをきり、母の日も非常に良かった。５月までは 12%前後売上を伸ばした所が多い。６月にW杯が始まった頃より紳士・婦人共に店頭の動きは止まってしまった。そのためか冬物追加をなしに夏物に入っていく所が多かった。冬物在庫過多の所は少なく、７月からのバーゲンセールで無くなりそう。

② 下期の展望

上期好調にスタートしたが、W杯より動きが鈍くなってきた。下期は選挙があるし、ペルー沖にラニーニャ現象が出て異常気象が続くらしく、衣料品の消費は不安定になりそう。ただ、所得は確実に増加しているので、年末商戦は 10%以上伸びると期待している。

Ⅳ。ファスナー

① 上期の回顧

衣料の輸入品は、1−5 月で前年同期比９ポイントの上昇となった。昨年上期が前年同期比で 32 ポイントの上昇であり、上昇率は昨年と比較すると緩やかになったものの、依然として増加傾向にある。

全般的に顧客の生産は経済危機前の状態に回復。顧客の生産意欲の高まりから、ファスナーの販売は衣料・鞄、ブーツなど全分野で絶好調。特に婦人服分野において、ニット生地から織り生地への生地の流行の変化や使用箇所の増加の影響があり、コンシール

ファスナーの販売が非常に好調。ブーツは国内需要向けとして、昨年の店頭での販売が好調だったことから各社、高い生産水準を継続し、好調な販売となった。

昨年より顕著に見られるようになった、ボトムの前立部へのボタン複数個使いの流行によりファスナー使用が減少する傾向は本年上期も継続して見られた。ファスナーやボタンではなく、面ファスナーを前立部に使ったジーンズも一部に見られるなど、ファスナーとしてはマイナス要因だが、顧客の生産増に伴い、販売の回復傾向が見られるようになった。

② 下期の展望

市場経済は経済危機以前の状態を取り戻し、全般的な好調な生産が見込まれるも、C&一部大手衣料スーパーなどでは期待されたほど販売が伸びなかったとして、下期のジーンズ発注を抑制するなど一部では慎重な動きを見せるところが現れてきている。今後顧客の店頭販売、在庫の積みあがり具合により、生産も正常化していくと思われる。

以　　上